

2021年12月21日  
「コロナの時間学」研究成果報告

# 新型コロナウイルス感染症COVID-19蔓延 による社会生活変化に与える時間学的影響 について

山本 直樹<sup>1)</sup> 西川 潤<sup>2)</sup> 松原 敏郎<sup>3)</sup> 奥屋 茂<sup>1)</sup>

1. 大学教育・学生支援機構 保健管理センター
2. 山口大学大学院 医学系研究科 基礎検査学
3. 山口大学大学院 医学系研究科 高次脳機能病態学

# 目的

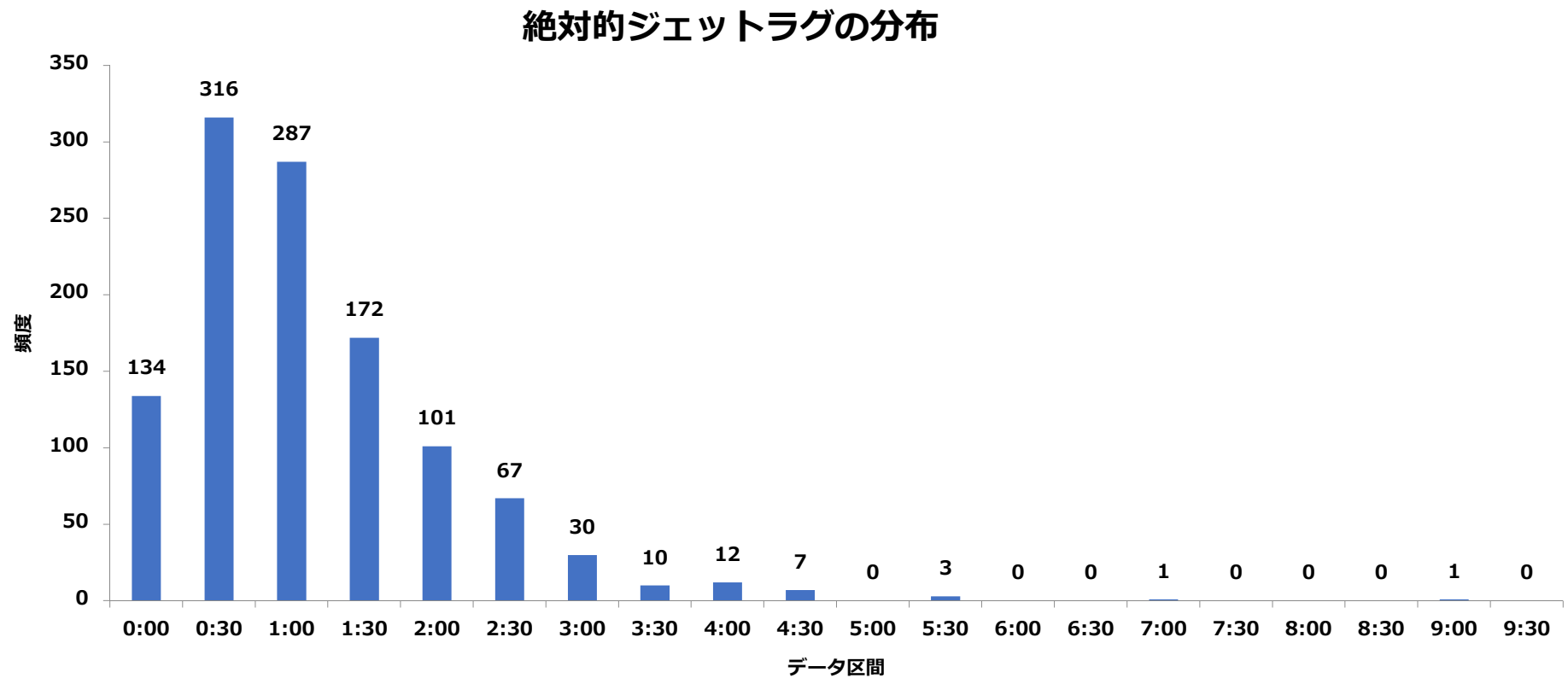
本研究は、後ろ向きWeb調査で、新型コロナ禍の蔓延のため生活の大幅な変化が生じ影響を及ぼしている本学全学部生を対象としている。

- ・ 人間が一日の中で示す時間的指向性クロノタイプに**新型コロナ禍の蔓延時期と終息時期**とで変化があるかどうかをMunich ChronoType Questionnaire (MCTQ) 質問票のWeb版を作成して縦断的に調査する。
- ・ 不安や抑うつやストレスによる精神症状および生活状況を二つの独自のアンケートWebシステムを作成して調査する。



総合技術部の御支援により、独自のWeb上でのアンケートシステムを開発し、全学部生に対して告知し、コロナ禍蔓延によるクロノタイプの変化と影響される精神的社会的因子について検証する。

# 絶対的ジェットラグの分布



絶対的ジェットラグ 平均値 0時間56分

# 今後の研究

- 今回、コロナ禍の蔓延時期のデータとして取得した。
- 今後、1年後の8-12月に再度調査を行い、コロナ禍終息時期としてコロナ禍の蔓延時期とのデータを比較する予定である。
- 不安や抑うつストレス等精神症状および生活実態状況の二つのアンケートシステムも、同様に1年後に再度調査を行い、コロナ禍の蔓延時期と終息時期でのデータの比較する予定である。
- 保健管理センター主催で毎年行っている学生健診データの各種項目を新型コロナ禍の蔓延時期(2020~2021年度)と非蔓延時期(2022年以降)とで比較し、BMI 血圧等様々な検診項目の相違点と睡眠との関連を検証する。

山口大学研究プロジェクト  
コロナの時間学 ～新型コロナウイルスが人間と社会に対して与える時間的影響～

研究成果報告書

主研究者	山本 直樹	所属	保健管理センター
共同研究者	西川 潤 大学院医学系研究科・基礎検査学講座 教授 松原 敏郎 大学院医学系研究科・高次脳機能病態学 准教授 奥屋 茂 大学教育・学生支援機構 保健管理センター 教授・所長		
研究課題名			
新型コロナウイルス感染症 COVID-19 蔓延による社会生活変化に与える時間学的影響について			
研究内容と成果の概要			
<p>2019 年から新型コロナウイルス感染症の蔓延により、国民全体の社会生活の大幅な変化が必要となっており、大学生の学生生活も大幅な変化を余儀なくされている。最近の国内と山口県内の感染者の減少傾向により、山口大学においても、三密対策を行った場合に限りの対面講義の開始や時間制限のある部活動を再開するなど徐々に学生の生活は戻ってきているものの、まだ遠隔講義や大学構内の感染対策強化や学園祭等様々なイベントの中止となっており、コロナ蔓延以前までの学生生活と大幅に変化してきている。本研究で我々は、後ろ向き Web 調査として生活の大幅な変化が生じ影響を及ぼしている本学学生を対象とし、①人間が一日の中で示す時間的指向性クロノタイプに新年度直後の頃と現在とで変化があるかどうかを Munich ChronoType Questionnaire (MCTQ) 質問票で縦断的に調査し、②同時に不安抑うつストレス知覚などの精神症状および食生活や勉強時間などの生活状況を調査、コロナ禍によるクロノタイプの変化とそれに影響される心理社会的因子について検証・調査した。また新型コロナ禍の蔓延時期と終息後の時期で同じ調査を行い、コロナ禍蔓延による生活習慣の影響と心理社会的因子への影響を検証する予定であった。しかし残念ながら、二年間の研究期間では新型コロナ禍蔓延は継続し、終息の期間は未だ見えない状況であったので、研究期間内の調査は新型コロナ禍蔓延時期としての調査をまず行った。結果の解析はまだ不十分であるが、平日の平均睡眠時間は約 6 時間 30 分、休日の平均睡眠時間は 7 時間 18 分と比較的十分に時間はとられていた結果であった。新型コロナ禍蔓延のため、遠隔講義や部活・イベント等の中止で自宅滞在が多かった影響と考えられる。しかし新型コロナ禍終息後の正常化した大学の学生生活に戻った後の調査ができていないので、様々な解析で比較検討が未だできておらず解析不十分な結果であった。今後は学生来年度以降に新型コロナ禍が終息し、以前のような学生生活に戻った時点で再度同じ調査を行う予定である。</p>			

研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

研究一年目の2020年は、Webによる新しいアンケートシステムを総合技術部と共同して作成したが、新型コロナウイルス禍蔓延のため、緊急事態宣言やまん延防止措置等で山口県外への出張等禁止措置・帰省後の14日間の待機のため、本学生のWebでの講義等のために来学なく、連絡も難しいため研究は全く進展しなかった。

研究二年目の2021年の夏以降ごろから徐々に全学部学生の対面講義が復活し、大学での講義・実習等も感染対策しながら学生の来学が可能となってきたので、ようやくアンケートシステムを開始した。現在も研究継続してデータ採取を行っている。

その他特記事項

研究期間中にあまり研究の進捗状況が芳しくなく申し訳ないです。